

炭労大会、秋闘方針確立

感じさせた重大危機

今後はストを含め闘い強める

「夏から秋にかけての闘争方針」の確立を中心議題に開かれた第六十六回炭労定期大会(八月二十五〜二十七日)は、闘争の質的変化の確かなきまじく見せながらも、炭労がかつてない重大危機に直面していることをひしひしと感じさせた。

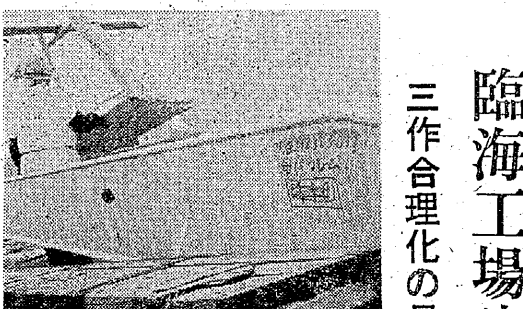
「夏から秋にかけての闘争方針」の確立を中心議題に開かれた第六十六回炭労定期大会(八月二十五〜二十七日)は、闘争の質的変化の確かなきまじく見せながらも、炭労がかつてない重大危機に直面していることをひしひしと感じさせた。

第一に、住友三山における合理化攻撃が明らかにしているように、当面右炭政策に対する闘いの重要性が強調されたが、それにはたゞ中央動員などによりかかるのではなく、ストライキを含めて資本に対する闘いを強めるべきこと。

第二に、保安闘争をいっそう重視し、闘いを積極化する必要は言うまでもないが、今後は重要災害などの場合全山が抗議ストを行うなど、保安日や保安月間(十一月)運動の強化と共に、具体的な闘いを組むこと。

第三に、総評がすすめる統一闘争に積極的に参加し、沖縄返還協

「夏から秋にかけての闘争方針」の確立を中心議題に開かれた第六十六回炭労定期大会(八月二十五〜二十七日)は、闘争の質的変化の確かなきまじく見せながらも、炭労がかつてない重大危機に直面していることをひしひしと感じさせた。



臨海工場建設へ

三作合理化の目指すもの

三井製塩所は、人事管理の強化を含む合理化を提案してきたが、めざすものは大規模な臨海工場建設(三井塩業の隣り)にある。写真は組立中の運搬機台。

二十六回目の終戦記念の日、ニクソン大統領は新経済政策なるものを一方的に発表しました。その内容は八項目にわたり、何よりも労働者を愛するといながら、賃上げを抑制し、物価の抑制を主張し、ドルの信用を低下させたのです。

ニクソンの新経済政策の本質を理解すれば、事態がどれほど深刻であり、困難であつても、あくまで自主的な立場でドルを守ることが、筋を通し、安易な妥協を排して対処してゆかねばなりません。

さて、最近の景気後退、そして今度のドル・ショックなどによって、そのしわ寄せをうける中小企業、農業、労働者、地方財政などに対して、早急に講ずべき措置は、どうあるべきでしょうか。

個人消費支出はGNPの五〇%を占め、年々低下しています。換言すれば、低賃金と国民生活を犠牲にした安い輸出価格で、円が強くなった

秋・年末に向けての

闘いについて

激動する

情勢

主張

今日の情勢は、激動を続けています。ニクソン米大統領の「金とドルの交換停止宣言」(八月十五日)は、戦後二十六年間続いたIMF(国際通貨基金)体制の絶体的な土壌を放棄することを意味します。第二次世界大戦後自由世界の盟主として、ドルを中心とするIMF体制を確立した通貨制度の存続の根が、ドル体制の停止を宣言したのです。都合のよろしうありませぬ。

六〇年代にすすめられた体制的な合理化による低賃金・労働強化は、一方の側の高成長との間の矛盾を鋭くし、拡大し、公害・過剰消費をとりこみ、職場と地域から反響体制を確立してゆくべき時期です。

私達は分裂後十年、その経験と教訓を生かし、前進しなければなりません。「長期抵抗統一路線」は読んで字の如く、闘いの連続です。ともすれば展望を見失いがちですが、私達の闘いの勝利はこの路線以外にはありません。闘いの源泉は組合員・主婦会員の一人ひとりの創意性をどう闘いの中で高めてゆくか、組織的に活動をどう展開し統一をはかってゆくか、にあります。

強めよう統一

このような情勢のなかで、私達は秋に向けて「沖縄返還協定批准反対」「平和と民主主義、命と暮らしを守る」闘いをすすめますが、その統一行動の前進によって、佐藤内閣打倒の条件はかつてなく高まるものと思われまふ。

秋闘の目標

それにはこれからの具体的取組みで一つの大切なことは、職場・地域と指導部との間に大きなパイプを通す事、従って職場・地域の分会長会議はもちろんで、現場三役の担当者会議に至るまで本部で行ない、固い意志統一のもとに活動の活性化をはかる。教宣活動の職場・地域での強化、活動に当っての視点の統一を推進しなければなりません。そこに、方向性と具体的な活動が生まれるのです。

破綻した対米依存の政策

米国のドル危機は、大統領のいような貿易収支の赤字によるものではなく、IMF基礎通貨国の特権を、どことんでも乱用し、海外軍事支出、対外援助、民間資本投資をさかして

国民参加の経済建設を

衆議院議員 細谷治嘉

平和と福祉重点の政策を

組合員・家族の皆さんへ